

京都教区時報

第102号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

() 浸透していけるか ビジョンと基本方針(



人権を尊び平和を築こう

8月11日 平和祈願ミサ 平和行進

京都教区の皆さん、8月11日は各小教区のミサで、平和のために祈りましょう。平和のために祈り働くこと、それは今、現代の私たちキリスト者に、神から与えられたとても重大な使命です。

しかし、私たちは今、何をどのように祈り、働けばいいのでしょうか。戦争のない日本に住んでいるキリスト者はただ、40年前の戦争の惨事を思い出し、日本が再び戦争を起こさず、焼け野原にならぬことだけを祈ればいいのでしょうか？

いえ、私たちは平和を願う気持ちを戦争のない状態だけに表わすのではなく、現に行われている戦争、そして、その根とも言える人権軽視の社会に目を向けなければならぬのです。

宗教や経済の対立やさまざまな争いを越え、ほんとうに人間が人間らしく生きることができる社会の実現……8月11日の平和の行進で、すべての人の平和を願う気持ちに、人権を尊ぶことの大切さをキリスト者として訴えましょう。今までそれに気づかず、目をそむけていた私たち自身をも省みましょう。平和の行進は私たちにできる小さな祈りの実行です。

京都教区の皆さん、8月11日は各小教区のミサで、平和のために祈りましょう。私たちはそれに請い願い、祈り求めるなら、わたしはそれを聞き入れる。

(エレミヤ 29:11~12)

神は仰せになる
 「わたしの思いは、災厄ではなく、あなたがたに平和を与える事である。

わたしに 請い願い、祈り求めるなら、わたしはそれを聞き入れる。」

司祭評議会定例会議報告

(1) 宣教司牧評議会の報告

6月22・23日に開かれた。

(詳細は4、5ページ参照)
会議の結果、常任委員に託されたことは次の通り。

① 基本方針のわかりにくい点について、司教団に質問状を出す。

② 司教団創立50周年に向けての取り組み。

③ 家庭の問題についてとりあげる。

(2) 司教団の基本方針と優先課題の具体化について

話し合いの中で、教区全体として、司祭団が一致して具体的な行動に取り組む必要が出された。具体化として、小教区にどういう人がおられて、どういうニードがあるのかを調べ、地域に答えていく。又、基本方針の①と②を一致させるようにし、さらにではなく、教区全体が一致して取り組んでいくべき(例えば「人権」又は「人権福祉」)

7月1日

というテーマで)だという提案が越知師から出されたが、次の議題との関連で話すことになった。

(3) 司祭修道士研修会で出されたことの反省と実行について

今までの研修会で出された事で、すでに実行された事、又、すぐ取り組むべきこと等について報告がなされた。

話し合いの結果、具体的にすぐ取り組むべきこととして「適正配置」のことが出され、出来れば来年の聖香油の日にでも、司教から発表できるようにしてはどうかという意見が出された。

そのため実行委員として、村上(透)師、ルカス師、ルーニー師が選ばれ、他のグループからも委員を出してもらうことになった。

(4) 教区創立50周年について

この件については宣司評常任委員会であつかつてもらう。

(5) 平和への歩みからの報告

8月11日(日)に各小教区で平和のミサ。共同祈願はそれぞれで作つてもらう。

午後、京都南部地区では、講演会と平和行進、三重地区では講演会が予定されている。

司教の足どり

6月

1日

「太陽の園」五周年。「こひつじの苑」関係者と懇談

2日(日)教区修女連総会ミサ

4日 聖母女学院代表來訪。司祭評常任委

9日(日)新潟司教叙階式(佐藤敬一師)に古屋司教と参列

11日 S教会信徒代表と面談

13日 D氏を訪問

15日 聖嬰会代表來訪。津O氏來訪。平城NT合同会議

16日(日)九条教会堅信ミサ。広島司教叙階式(三末篤実師)参列

17日(日)22日 司教協総会

22日(日)23日 京都宣教司牧評議会

南信協代表者会

24日 KCC教職研修会(祖先死者)

25日 ネオ求道共同体集会(桑名院)

29日 母を見舞う(聖マルケン病院)

30日(日)聖マルチン病棟ミサ。



指紋が問い合わせるもの

外登法改正要求京滋大会に参加して

里重伸二



外国人登録法の定める指紋押捺制度と外国人登録証の常時携帯義務の撤廃を要求する法改正論議が盛んになされています。カトリックを含めたキリスト教界においても、去る6月9日、京都労働者総合会館において「外登法改正要求大集会」が外登法問題とりくむ京滋キリスト教連絡協議会の主催により、約650名の参加を得て行なわれました。指紋押捺拒否者も6月末の段階で500名にものぼり、7月からの外国人登録大量切り替えが始まることから、指紋押捺拒否とその支援の輪は大きく広がっていきます。

外国人登録法の定める指紋押捺制度は、外国人を即、治安管理の対象とするもので外国人の人権を踏みにじるもので、このことは、日本は日本人だけで構成されるべきであるという観念が日本政府、ひいては日本人全体に存在しているということでしょう。しかし、日本に居住する在日韓国・朝鮮人は65万人と言われており、しかも

彼等は日本の植民地支配の結果、日本へ移り住まさるをえなかつた人とその子孫です。現在までの在日韓国・朝鮮人にに対する日本の歴史的経過をふまえれば、指紋押捺制度を私たちが認めてしまつといふことは、在日韓国・朝鮮人が韓国・朝鮮人として生きることを認めないだけでなく、日本のアジア各地、特に朝鮮半島に対する植民地

彼等は日本の植民地支配の結果、日本へ移り住まさるをえなかつた人とその子孫です。現在までの在日韓国・朝鮮人にに対する日本の歴史的経過をふまえれば、指紋押捺制度を私たちが認めてしまつといふことは、在日韓国・朝鮮人が韓国・朝鮮人として生きることを認めないだけでなく、日本のアジア各地、特に朝鮮半島に対する植民地

彼らの本質はとても大きく、制度を私たちが認めてしまつといふことは、在日韓国・朝鮮人が韓国・朝鮮人として生きることを認めないだけでなく、日本のアジア各地、特に朝鮮半島に対する植民地

彼らの本質はとても大きく、制度を私たちが認めてしまつといふことは、在日韓国・朝鮮人が韓国・朝鮮人として生きることを認めないだけでなく、日本のアジア各地、特に朝鮮半島に対する植民地

支配と差別の歴史を清算し、福音のメッセージに応えることのできる社会を実現することを放棄してしまうことになるでしょう。特に教会の戦争責任などがあまり問題にされないカトリック教会にとつて、外登法改正論議が問い合わせるもの

に死んで行くのです。夜になると死体の腐った臭いと放射能の臭いで呼吸困難になるほどでした。その中で、ある母親は裸の体にボロ布れのように自分の肉片をぶらさげ、子供を探しながらさまよい、死ぬ瞬間まで子供の名を呼んでいる。また瀕死の人々が水を求めて行くので、川には何百という死体が浮いている。水槽に首を突っ込んで六、七人も折り重つて死んでいる。実際に広島市内中私たちが創り出している問題であると受けとめることができ私たちの出発点であり十字架となるのであります。(小山教会・大学生)

'85「平和への歩み学習会」

木村千代子さん講演より



6月16日

よくピカドンといいますが、爆心地から2.3キロで私が感じたのは引き裂くような鋭い音とともに強烈なオレンジ光線の筋が走つて来るという印象です。瞬間、はじき飛ばされ、左眼を失明しました。失神から覚めて、ようやく勤務先の兵舎にたどりつくと、やがて被爆者がトラックで何台も運ばれてきました。無傷の人もひどい火傷

の人もいました。火傷といつてもザクロのように肉体がはじけた状態で、頭も体も風船のように四倍位にふくれ上つていました。どんどん死ぬのですが、またどんどん運ばれて来て、寝かす場所がないので、もうだめと思つた人は皆、片付けました。今から思うと生きたまま葬つた人も多勢あつたと思うのです。無傷の人も一週間以内

(広島・幟町教会信徒)

こうした被爆体験を通してお話をしたい事は、戦争という言葉で催眠術にかけられていたという事です。実際に恐ろしいひどい事を「戦争だから」という一言で納得していいのです。広島、長崎の人々の犠牲によって実現した平和がもし失われたら、次の瞬間、皆さんのが存続はどうなるかわかりません。

今の核兵器は広島の数千倍の威力で、三発ほどで日本は全滅です。核兵器が存在する限りその危険はあります。地上から核兵器がなくなります。今まで、その恐ろしさを伝えて欲深い。選挙に棄権して、全国民が賛成していないのに戦争の準備がなされ、知らぬ間に戦争に巻き込まれることがないようになります。

浸透しているか ビジョンと基本方針

第二回宣教司牧評議会総会報告

'85年6月22～23日

京都教区、ビジョンと日本司教団の基本方針と優先課題との調和を考え、教区運営への浸透、具体化について第二回総会が開かれた。

(一)評議員メンバー

異動 Frオカナード、Sr平沢、藤井陽子諸氏に替つてFrルカス・ホルステインク(司祭評)、Srアントニア出島(修女連)、安田五郎、岡本鶴子(河原町)諸氏が加えられ在籍32名、当日出席者28名。

助言者 ニコラス師(イエズス会)

(二)プログラム紹介
22日 pm 8時

1 常任委員会報告—議長奥本氏
2 グループ学習討論—
5グループに分かれ、教区ビジョンの日本司教団の基本方針について考へてきたことを討議した。

(第1グループ)

基本方針の(1)“カトリック者のキリストを伝える使命”と(2)“社会の福音化のためにある教会”は、

(第2グループ)

井陽子諸氏に替つてFrルカス・ホルステインク(司祭評)、Srアントニア出島(修女連)、安田五郎、岡本鶴子(河原町)諸氏が加えられ在籍32名、当日出席者28名。

(第3グループ)

助言者 ニコラス師(イエズス会)

京都教区は過去の反省をふまえ、問題が基盤である事を強調すべき。言葉ではなく、その精神が理解されるよう身近なところで何が出来るか見出し手がけてゆこう。

(第4グループ)

京都教区は過去の反省をふまえ、自分が信頼できる姿勢はできない。双方に基本的な矛盾はない。むしろ基本方針の具現化としてビジョンが位置づけられる。どちらも家庭に徹底させる事が基本方針に沿う事もある。あらゆる手段を試み、共同体意識の低い現状を改善してゆく。既に実践されている各活動を福音宣教活動の具体例として教区民に提示する。

(第5グループ)

基本方針は司教団が、ビジョンは教区民が作ったもの。しかし両者間の矛盾はない。実状としては、どちらも理解、浸透してい

(1)を大目標、(2)を手段と見る。車の両輪のような関係にある。私はむしろ(2)から(1)へと移る姿勢にある。何れにしろ作り上げてゆくプロセスの大切さを痛感。'87年の信徒使徒職大会については司教団は信徒の歩みの実態を御存知なのだろうか。上意下達の感が強い。

(第2グループ)

ビジョン、基本方針を知つても、信徒は信仰を守ることに精一杯。生活の実践につながらず、自分で信仰体験をしてみなければ喜びを伝える姿勢はできない。双方に基本的な矛盾はない。むしろ

基本方針の具現化としてビジョンが位置づけられる。どちらも家庭に徹底させる事が基本方針に沿う事もある。あらゆる手段を試み、共同体意識の低い現状を改善してゆく。既に実践されている各活動を福音宣教活動の具体例として教区民に提示する。

(第4グループ)

京都教区は過去の反省をふまえ、

“基本”(2)にそつたビジョンを更に徹底させる事が基本方針に沿う事もある。あらゆる手段を

試み、共同体意識の低い現状を改善してゆく。既に実践されている各活動を福音宣教活動の具体例として教区民に提示する。

(第5グループ)

基本方針は司教団が、ビジョ

に働いていない危機感がある。信仰共同体が一致し、社会の中で福音的なものを育んでいく使命を打ち出しているが、基本方針は会社のトップが何か命令をする調子で、誰が何をするのか考えていな。ビジョンは皆で作り誰がどのような役割を果すかを考えている。

次のような公開質問状を司教団に送ることが提案された。

①洗礼を受けている人の中で、喜んで教会共同体に参加している人は少ないこの実状を、司教団はどう様に理解しているのか。

②(1)と“基本”的数をふやせという主張をどのように関係づけたらよいのか。

1 「教区ビジョン作り」、連絡会議の折にもよき助言者であつたニコラス師を再び迎え、前夜5グループ討議のまとめをふまえ、教区

ビジョンと基本方針の内容理解、浸透、具体化、二つの指針の関わりにつき示唆に富んだ講演を静聴。

(ニコラス師の講演要旨は次号に掲載予定)

2 pm 1時 全体会

ビジョンは引き続き具現化に進展させ、“基本方針”への京都教区宣教司牧評議会の反応を司教団に伝える事になった。なお教区50周年へ

の取り組み方は司祭評案を常任委員会で検討の上、司教に答申する事とした。

3 みことばの祭儀にて閉会

るとは言えない。基本はビジョン活動を力づけるもの。社会と共に歩む教会、キリスト者であるためには、自分の回心、刷新なしには出来ない。

教区ビジョンと司教団の基本方針の調和を話しあい、わかりあいながら第二回宣教司牧評総会が開かれました。

いつもながら各メンバーの疲れを知らぬ熱心さには感心します。特に奈良、滋賀、三重それぞれのロックでビジョンと基本方針の勉強会、話し合いを持ったり、ミサの中での基本方針を読んで解説がされたり、小教区でも実践に向けて大きな努力が積まれている事がグループ討議で伝えられ、その熱意



第2回 宣教司牧評議会を観る

対話から始めよう

Sr. 米屋 恵美子



はないでしょうか。
ビジョンと基本の一枚岩、福音宣教活動への呼びかけは、短急な内容理解、浸透、具体化のプロセスではないと思います。

熱意 広かりはまたまた見受けられないのではないでしょうか。
今まで教会の中で、自分で考え
責任をもつて行動する余地のなか
区民自身が作り上げたという意識
も持たず、宣教司牧評というもの
に大した共感も義務感も持っていない
事を、司祭も評議員も受けと
める姿勢づくりから始めなければ
またまた“基本”への抵抗感を教
区民の間にふりまきかねないので
はないでしようか。

活発さに更に感心させられました。内容理解↓浸透↓具體化を繰り上げ、確かに有意義な総会となりました。

活発さに更に感心させられました。

んで、「福音を伝えるのですから」そってゆくのには、先ず信仰のレベルでの信徒同志、教会同志の横のコミュニケーションがどうしても必要です。対話なしでは、外へ向つて、社会への福音宣教は考えられません。その前提として、とにかく左右上下の交流をいろいろやつてみましょう。批判も恐れず、引っ込み思案の信徒の反応も聞く司牧評になるために、もっと新陳代謝する方法を考えるのも教区民の共感、支持を得し、ひいては宣教活動へのエネルギーとすることではないでしょうか。

“浮き上った司牧評”ではなく、“私たち教区民の声がそのまま通る司牧評”づくりをメンバーの新陳代謝をしながら進めてゆけば、みんなの意見の吸い上げ、福音宣教活性化につながると思うのは短絡的でしょうか？



ご存知ですか?

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)
聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

=祈りのこもった素朴な味=
送ってよろこばれる
修道院製ワッキ一
ミサ用ブドー酒
(純粹マスカット)
和洋酒

夕キノ

〒604
京都市中京区錦小路通烏丸東入
TEL (221) 0976-7

美 し い 印 刷

(株)からふね屋

京都市左京区東山通仁王門下ル
〒606-**(075)761-1166**（代表）

日本カトリック司教團
諸宗教委員会編著
カトリック中央協議会

曾野綾子氏を迎えて
宣教80周年記念講演会



◆奈良教会

奈良教会(P・ウイックス神父)では、宣教80周年を記念し、5月18日(土)奈良県文化会館大ホールにおいて曾野綾子講演会を開催した。

昨年来プロテスチント教会の協力を得て、コルベ神父、アンネフランク平和写真展を開催(来場者865名)、コルベ神父の映画会。12月23日には市民クリスマスと布教活動を続けてきた。その頂点として講演会を企画。信徒は経済的負担はもとより、9日間のノヴィナの祈りを捧げて成功を祈ってきた。講演会当日は1480名の来場があり、会場は満席であった。

テーマは『現代に生きる聖書』で、聖書がいかに本来の人間を写出しているのかをわかりやすく説明されると共に、ご自身の活動、経験の中で神との関わりを情熱的に話された。人々は先生のユ

きょうど ◇ しが ◇ なら ◇ みえ

ーモアあふれる話に笑い、心に深く触れる話に涙した。

この一連の布教活動の中での受洗。多くの方々の聖書勉強会の参加。キリストのからし種が確実に蒔かれたと思っている。これらの

布教活動を通して、神がすべてを用意され、奈良教会のすべての信徒をご自身の手足としてお使いになつたと感じている。

(松島)

◆御所教会

日本の教会の基本方針に取り組んでいる御所教会では典礼・布教・信徒養成の各委員会を発足させた。また6月9日には初めてのフォーラミサが行なわれた。(清富)

◆三重県婦人大会

5月12日
伊勢教会にて、110余名が参加し婦人大会が開かれた。

「高齢社会をどう生きるか」というテーマで、精神科医である稻地聖一先生(津教会)の講演を聞いた。老人天国日本で私たちはどのように生きればいいか、健康法・心の持ち方、ボランティア、福祉社会への道等、有意義なお話の

意見を出し合った。(青木道子)

◆三重信徒協議会 勉強会

6月15・16日

「日本の教会の基本方針」についての勉強会が津・研宗館にて行われた。小教区代表42名および京都、滋賀、奈良信徒協の代表が参加した。

(藤井実)

◆第一回 北部12教会 青年大会

6月30日

「キリストの御名のうちにひとつになろう」のテーマの下、宮津教会で北部の青年40数名が集つた。



県下のカトリック婦人のはじめの集いを大津教会でもつた。長浜、彦根、草津、唐崎、大津の5教会で60名ほどが参加、各教会の婦人活動の紹介、悩みの分かち合いをした。この日の集いをスタートに、つながりを深め、互いに学び合い、よい活動をしようという事を確かめ合つた。

(花坂多恵子)

◆第一回 滋賀県婦人大会

7月21日



可動式スロープ完成

御利用をお待ちしています(伊藤)

◆西舞鶴教会



可動式スロープ完成

御利用をお待ちしています(伊藤)

小教区の枠にこもりがちな活動を見直し、横のつながりを一層広げていく事を確認しミサで閉会した。国際青年年にあたり、教会の中でも青年の役割が強調される今日、福音宣教を推進していく教会の将来に一つの光明を見い出した大会であつた。

(二条 紀彦)



聖書クイズ"

新約編

聖書を
よく
読んでね

- | | | | | |
|-------|--------|-------|-----|----|
| e | d | c | b | a |
| 洗者ヨハネ | サマリ亞の女 | ナタナエル | ユテコ | ユダ |
-
- | | | | | |
|----|-----|------|-------|--------|
| ホ | 二 | ハ | 口 | イ |
| 井戸 | 居眠り | 銀30枚 | ヨルダン川 | いちじくの木 |

三、上段の人と関係の深い物、所、出来事を下段の中から選んでください。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| e | d | c | b | a |
| ヨセフ | パウロ | ユスト | シモン | ヨハネ |
-
- | | | | | |
|----|----|-----|------|------|
| ホ | 二 | ハ | 口 | イ |
| 農夫 | 司祭 | 雷の子 | バルナバ | バルサバ |

二、聖書に二つの名前を持った人が出てきます。上段の人の別名を下段から選んでください。

- | | | | | |
|-----|-----|-------|-----|-----|
| e | d | c | b | a |
| マタイ | パウロ | デメトリオ | ペトロ | シモン |
-
- | | | | | |
|----|----|-------|----|------|
| ト | ヘ | ホ | ハ | イ |
| 農夫 | 司祭 | 銀細工職人 | 税吏 | 天幕職人 |

★答え ハガキでお送り下さい。正解者の中から5名の方に記念品をプレゼントいたします。住所、名前、電話、年令、教会をかいて8月末日までに「編集部」宛お送り下さい。

解答は10月号に掲載

〒606 京都市左京区仁王門通り新高倉東入ル

京都カトリック教理センター

一、上段の人の職業は何でしょう。
下段の中から選んでください。



語って下さい

パン祭

食べがふくらむ

手術のための輸血を宗教上の理由により、両親が拒否したため子供が死ぬという事件があった。新聞をはじめ、私も、私の周囲も概して両親に対し批判的であった。が果して、神を信じる者、信仰を持つものが一笑に付し切れるものであろうか。

中島 きよいち

「輸血」と「信仰」

子を思う親の気持ちは誰しも同じである。その子が死に至るまでの間、両親はどんなに悩み、苦しみ、心がゆれ動いた事だろう。私たちには「信じる」といとも簡単に口にする事ができるが、信じるが狂信しないことは言葉に矛盾があるようと思う。信じる、といふ事は、時には周囲の理解できない行動を伴うものである。都合の悪い時に逃げ出すことのできる信仰は信仰とは言わないのではないか。信仰というものを改めて思い返させる出来事であった。

原文を抜粋(桃山教会)

'84京都・奈良ウォーカソン 9,797,876円を アフリカに送りました

昨年、奈良で9月29日、京都で11月3日に、アフリカのブルキナファソの飢え渴く兄弟たちのために、皆さまが歩いて下さったウォーカソン。その後もスponサーの方々の暖かい心が寄せられ、総額、9,797,876円もの募金が集まりました。現地の状態とその必要を考慮し、7月3日、マリラセマダウラにて開催されました。

井戸を掘るお金として

アの宣教フランシスコ会を通じ、井戸を掘るお金として、全額ブルキナファソへ送金致しました。

井戸掘りの進行状況などわからましたら、又、お知らせ致しますので、おたのしみに。



お知らせ

85 平和への歩み

8月11日(日)への集い



教区スケジュール

8月

- 5～7日 京都市中学生広島巡礼
- 6～7日 三重待者会
- 6～15日 「平和旬間」
- 8日 司祭評常任委員会
- 11日(日) 京都教区平和祈願ミサ
(各小教区) 平和行進
(京都南) 講演(二・重)
- 12～25日 京都南高校生会ワーク
キャンプ(長島愛生園)
- 23～25日 三重高校生エクカウンター

聖書週間 み言葉を生活に生かそう

書道作品募集

「聖書のみ言葉を書こう。」

聖書朗読コンテスト

「み言葉を美しく伝えよう。」



聖書クロスワードパズル

六月号 解答

◆ ウィッテ氏の金祝祝いで師は、信徒一同に誓いをたてさせた。
「来年の今日、もう一人の信徒を私は主の祭壇に導く」と。

白髪の老師の上に輝く宣教師魂。仲間は仲間を呼ぶ。その使命感。単純な数字。一より多くの働き。(MT)



アジアの兄弟のため タイ国
ウボン教区
今年も歩こうウォーカソン
9月21日(奈良) 11月4日(祝)(京都)



お問い合わせ／教理センター・アネックスまで
☎(075)761-9095



ツーシェット師 (彦根教会)	米国から帰国、彦根で療養中	アラール師 (北白川修道院)	聖ヨゼフ整肢園より退院	ウォルケン師 (衣笠教会)	第二日赤病院より退院、まだギ	T・グリーン師	日本に帰国、在長崎
（児童の部 幼児から中学生）	（成人の部 高校生以上）	（高校生以上一般）	（中学生以下）	（高校生以上一般）	（中学生以下）	（高校生以上一般）	（中学生以下）
● 出品点数………1人2点まで	● 出品点数………1人2点まで	● 書体・大きさ・自由	● 書体・大きさ・自由	● 朗読箇所	● 朗読箇所	● 申込〆切	● 申込〆切
● 出品料……………1点に付200円	● 出品料……………1点に付200円	● 〆切……………95年9月30日	● 〆切……………95年9月30日	● 参加者が随意に選ぶ(2分以内)	● 参加者が随意に選ぶ(2分以内)	● 教理センターまで	● 教理センターまで
● 送り先……………京都カトリック教理センター	● 送り先……………京都カトリック教理センター	● コンテスト………10月31日	● コンテスト………10月31日	● 教理センターまで	● 教理センターまで	▼申込み先………京都カトリック教理センター	▼申込み先………京都カトリック教理センター
● 会場……………京都カトリック会館6F	● 会場……………京都カトリック会館6F	● 場所……………京都カトリック会館6F	● 場所……………京都カトリック会館6F	● 東入ル……………(075)752-0057	● 東入ル……………(075)752-0057	〒606 京都市左京区仁王門通新高倉	〒606 京都市左京区仁王門通新高倉
● 展示……………11月6日(水)～16日(土)	● 展示……………11月6日(水)～16日(土)	● 東入……………(075)752-0057	● 東入……………(075)752-0057	● 東入……………(075)752-0057	● 東入……………(075)752-0057	〒606 京都市左京区仁王門通新高倉	〒606 京都市左京区仁王門通新高倉

▼ 多数のご応募ありがとうございました。抽選の結果、次の五名の方が当選と決まりました。▼ 浅原純(大津) 安里孝子(大阪) 小西文夫(久居) 岩佐世紀子(登美ヶ丘) 多田洋(高知) (敬称略)
▲ 各様の投稿をお待ちしています。
「時報編集部」宛お送り下さい。